

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス Liebeせこ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 1日		～	令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13人	(回答者数)	10人
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～	令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広く見渡ししやすい空間があり、危険な家具も少ない。体を動かす事ができるスペースがある。	家具がずれていないか見回りをスタッフで強化している。活動や用途に合わせて机を移動させたりスペースを確保している。	学習や活動と気持ちの切り替えがしやすいようにパーテーションを導入していく。クールダウンできる空間を作っていく。
2	活動の定着化を防ぐために、ローテーションで担当を決めている。読み聞かせや音楽に特化したスタッフもいる。	毎日違う活動を提供している。材料をたくさん使い様々な感覚遊びを取り入れている。	リクエストを募り実現していく。保護者様にお子様の興味のあることを聞き取り活動に取り入れていく。
3	年齢に合わせたおもちゃが揃っている。	スクイーズやシールなど流行りのおもちゃやお子様好きなおもちゃを取り入れるようにしている。	口に入れてしまうお子様もいるため、注意していきながら希望を聞き取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ぶつかり等で事故が多い。	空間が広く全力で走れてしまうため加減のしづらさがある。	床に印をつけたり、走れるエリアを作っていく。見守りを常に行い注意していく。
2	玄関やトイレに行くときに死角ができてしまう。	スタッフの目が届かなくなる場所があるため、目を離れた時に危険がある。	スタッフに声を掛けてトイレに行ってもらう。スタッフが付き添いで玄関に行くルールを作る。
3	ヒヤリハットの意識が弱く同じ事故が起きている。おもちゃやクレヨンを口に入れてしまう誤飲が多い。	人数が多いため誰かが見てくれているという意識で動いていた。	ヒヤリハットの集計時に反省点を上げて、意識を高めていく。